

卷頭の辞

島根大学と関西大学共同の隠岐文化総合調査団を編成したのは昭和廿九年の夏であるが、その当時ちようど関西大学へ西洋史の原弘二郎教授が着任せられ、かつて前任地の島根大学との共同研究の題目として隠岐調査のことと取りあげられた。

島大側では今石二三雄教授が原教授とともに企劃を担当せられて、昭和廿九年八月第一回の予備調査班を送り、翌三十年の夏に第二回の予備調査を終つて今年夏まで二回にわたる本格的な現地調査を實行した。

この総合調査の狙いは、元來隠岐の国が日本海中の孤島であつてしかも地質的には朝鮮半島につづき、距離的にも接近する地理上の關係から、古代以來大陸文化との密接な關係をもつであろうとは一応誰れしも推察するところであり、われわれもまたそれを考えた。

そして中世以後は後鳥羽院はじめ多くの政治的な連りをもつ人々との關係があり、離島的な文化的性格が本土との間にどんな動きをもつていたか、と云うような点について関心がもたれた。

殊にもう一つ私を刺戟したのは隠岐の考古學關係の文献がほとんどなく、最近島大の山本助教教授（調査団考古學班担当）の調査と地元の藤田一枝・田邑二枝両氏の資料蒐集を見るに止まる程度であるので、古代以來の総合研究に着手する必要があると感じた点である。

幸にして今石・原両教授の企劃と、その当時の島大文理学部長原田虎男教授・関大文学部長上道直夫教授の理解ある取扱いにより両大学の共同研究となつた。

四年間にわたる研究期間はこうして両大学関係者の支援によつて推進して来たのであるが、特に資金面では毎日新聞社が昨年より応援され全面的な協力を与えられ、関大理事会では私たちのために特別な取計らいをして頂いた。

今年になつて文部省科学研究費から助成され、そのために現地調査第四年度の仕上をゆつくりすることが出来た。同時に現地・島根県庁・教育委員会の絶大な厚意によつてこの調査を遂行し得たことは、調査団員の等しく感謝をするところである。一同に代つてここに深厚なる謝意を捧げるとともに、以上諸彦の御健祥を祈る。

昭和卅二年十一月

団長 末 永 雅 雄